

台風の置き土産

福田 茂夫
(伊達市南有珠町)

この夏（2016年）の北海道は立て続け台風が来襲する異常な気象に悩まされた。多くの犠牲者や住宅、田畠を失われた方々には慰めの言葉もない。特に8月30日に道南をかすめるように通過した台風10号では当方でも大きな被害があった。

我が家は内浦湾に突き出した「アルトリ岬」の付け根にあるため、強風で一晩中眠れず、翌朝、海岸に出て異様な光景に驚かされた。大きくえぐられた土手とその上の草地に打ち上げられたおびただしい流木、ゴミの山。あの東北大震災の津波よりも1mも上まで波が押し寄せていたのである。それからというもの、毎日、ゴミとの格闘である。

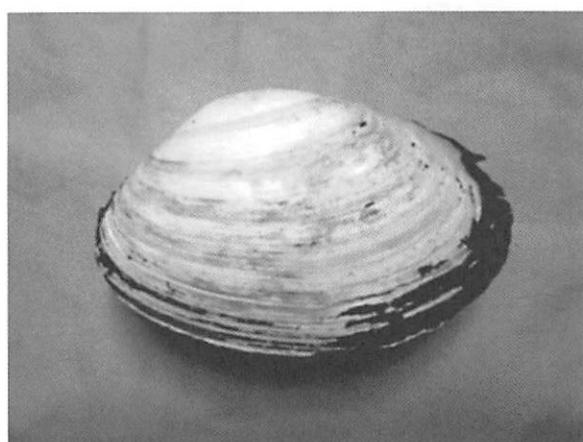
ゴミとともに大量のホタテガイやウバガイ（ホッキガイ）、ヒメエゾボラやツメタガイなどの巻貝、海藻、カニ類なども打ち上げられて、海洋生物への影響も相当なものがあったようだ。これ

らの小さな生物たちが試練を乗り越えて命をつないで行かれることを心から願うばかりだ。

そうした折、思いがけない発見もあった。今まで古い殻しか見かけなかった「ミルクイガイ」という二枚貝で、肉の一部が残っている大型の殻（殻長16cm）を2個体発見できたのだ。この貝は本州以南の暖流域に生息するもので、縄文海進（今から6,000～7,000年前）の頃に分布を北へ広げ、内浦湾でも生息していたと考えられている。その頃に生息していた古い殻が打ち上げられたのだろうと推測できるので、大変驚かされた。私が40年以上も観察してきて、初めて生息が確認できたのである。私の貝類コレクションの中でも近年の最貴重なものとなった。まさに台風の置き土産であった。



打ち上げられた雑多なゴミ



思いがけないお客様「ミルクイガイ」